

連合教職大学院 院生通信

令和5年 Vol.5

ブログ掲載版

INDEX

「教員養成フラッグシップ大学」の役割と取組

令和6年度 新カリキュラムについて

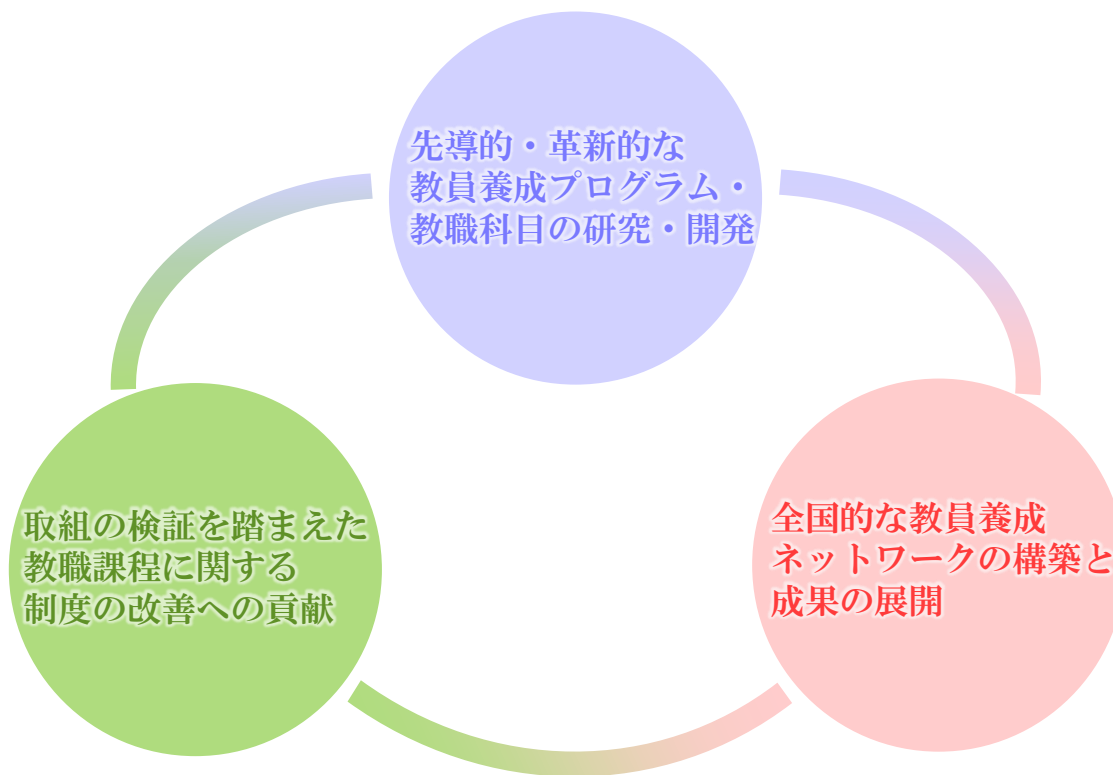
令和6年度入試、編集後記

発行元

大阪市教育委員会事務局 総務部 教育政策課
大阪市教育センター 教育振興担当

今回は、主に
大阪教育大学 連合教職大学院
(以下、大学院)の来年度の新カリ
キュラムについて、お伝えします。

「教員養成フラッグシップ大学」に 求められる3つの役割と取組



大阪教育大学 連合教職大学院 パンフレットより

令和4年3月、大阪教育大学は、
「令和の日本型学校教育」を担う教師の
育成を先導し、教員養成の在り方自体を
変革していくためのけん引役として、
文部科学大臣から
「教員養成フラッグシップ大学」
の指定を受けました。

日本の教育課題が縮図化している
大阪において、多様な主体と協働しな
がら、教員の養成・研修や学校教育の
高度化に取り組み、成果事例を日本
全国に発信・浸透させることにより、
大阪から日本の教育を
変えていくことをめざしています。

★ 全体の領域・科目構成

○各コース科目

●研究科共通科目

- ・ 共通5領域科目
- ・ **フラッグシップ大学
特例領域科目**
- ・ 現代的教育科目

●学校実習科目

●課題研究科目

●スクールリーダーシップコース科目

●援助ニーズ教育実践コース科目

●教育実践力コース科目

●特別支援教育コース科目

令和6年度からの新カリキュラムの大きな特徴として、「フラッグシップ大学特例領域科目」が新設されます。どのような領域・授業があるか、院生の感想や期待感とともにご紹介します。



①教育DX・STEAM 実践に関する領域

授業科目例) 教育におけるDXとSTEAMの理論と実践



デジタル化が進むことは、学校教育の在り方や授業観が変わることだと聞いたことがありますが、具体的なイメージが湧きづらいと感じています。

最新の教育DXやSTEAM教育の理論や事例を学ぶことで、より深い教育実践や新しい学びの在り方を学ぶことができそうですね。



②教育グローバル人材の育成に関する領域

授業科目例) グローバルスタディーズの展開



「グローバルな視点をもった教育」の必要性を感じているけれども、実際どうしていけばいいのか…。また、『教科横断的』『探究』など、最新の教育動向を知りたいです。

これからの時代を担っていく子どもたちに、どのような教育を提供できるか、具体的なカリキュラム開発ができるようになりそうですね。



③多職種協働による組織マネジメントに関する領域

授業科目例) 多職種協働による組織マネジメント



『チーム学校』という言葉をはじめ、うちの学校にもSSW、SC、SLといった方々がいますが、もっとうまく連携できないか、悩んでいます。

教職員と外部人材、それぞれが専門性を最大限に発揮するための理論や実践例を学ぶことができそうですね。管理職だけでなく、一教員としての知見も深まりそうです。



④ダイバーシティの理解に関する領域

授業科目例) インクルーシブ教育の理論と実践、社会的包摂に関する実践的研究



子どもたち一人ひとりの困り感や特性、家庭の状況などに応じて、適切な援助を求められているが、「これでよいだろうか」と日々悩みながら指導しているのが現状です。

一教員としてできることだけでなく、校内外の援助資源と連携することができそうですね。誰もが安心して学べる環境づくりへの知見が深まりそうです。



★ コース必修科目について



全ての院生が学ぶ研究科共通科目に加え、各コースが目標とする資質能力を育成するためのコース必修科目について、ご紹介します。



コース	授業科目 ※抜粋
スクールリーダーシップコース	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールリーダーシップの理論と実践 ・学校における人材育成の理論と実践 ・学校改善のためのアクションリサーチ
援助ニーズ教育実践コース	<ul style="list-style-type: none"> ・援助の理論と協働的援助 ・保護者との協働的援助 ・児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ
教育実践力コース	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践の研究手法 ・教育評価の理論と実践 ・探究学習の開発と実践
特別支援教育コース	<ul style="list-style-type: none"> ・特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援 ・特別支援教育の教育課程と授業論 ・特別なニーズのある子どもの臨床

教員としてのキャリア形成に最適な授業が展開されています。



※ 大学院の冊子 or HPも参考にしてください。



スクールリーダーシップコース科目 コース必修科目

学校改善のためのアクションリサーチ

上の表にあるスクールリーダーシップコースのコース必修科目の1つを詳しくご紹介します。

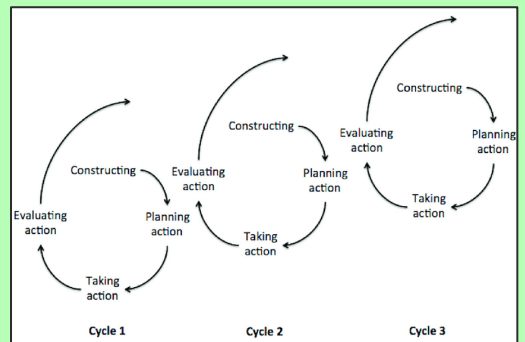


大学院での私たちの最大の目的は、**自身のもつ課題意識に基づいて、研究活動を行うこと**だと思います。標題の『アクションリサーチ』とは、それを実践によって迫っていくことです。

教師は**反省的实践家**であるとも言われ、日々の実践においても、PDCAサイクルを回し、理論と実践を行き来しながら取り組んでいると思いますが、**確かな理論や客観的なデータ等に基づいて省察するのは1人では難しい**ときもあるでしょう。実践が**生きた知識**となり、より良い教育実践を生み出す過程には、**何かある**のでしょうか。

この授業では、スクールリーダーシップコースの色々な先生方が関わってくださり、**アクションリサーチについて多角的・多面的に理解を進めていく**ことができます。それぞれの専門性を活かした授業内容と、院生同士の協議を中心にした授業展開は、**一様な理解に留まらず、スクラップ&ビルドを繰り返しながら、自身の研究についての態度を確かなものにしていきます。**

私たちが拠りどころとしている研究論文も、多くはこのような研究の積み重ねです。その方法が分かれば、**自身の実践への見方も変わる**のではないのでしょうか。



Coghlan and Brannick (2014) によるアクションリサーチサイクル図



令和6年度 入試について

大阪教育大学 大学院入試日程(連合教職大学院)

3次募集

出願期間

令和5年12月25日(月)～令和6年1月11日(木)

入試日

令和6年2月11日(日)

※志願状況により、4次募集を実施する場合があります。

〈大阪教育大学 令和6年度入試情報サイト〉

右の二次元コードを読み取るか、Ctrlキーを押しながらクリックすると、入試情報サイトにアクセスできます。



編集後記

今回は大阪教育大学が、教員養成フラッグシップ大学の指定を受けて、来年度に「教職大学院の共通5領域の必修単位数の弾力措置」を活用して設定する新たな領域・科目を予定していることについて紹介しました。これらの授業が開講される大学院には「研究者教員」と「実務家教員」がいます。「研究者教員」は、**それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績**を有しています。「実務家教員」は、**学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた経歴**のある方々です。どちらの教員も、院生が現場で抱える課題について、いつも親身に聴き、解決に向けた方向付けを示してくれます。院生にとって教職大学院には**共に学ぶ仲間や一人ひとりの成長をサポートする教員**がいます。このように教職大学院での学びには、多くの魅力があり、意義のある時間を過ごすことができます。次号は、昨年度大学院を修了し、管理職として働く教員のインタビュー記事を掲載予定です。